

トピックス

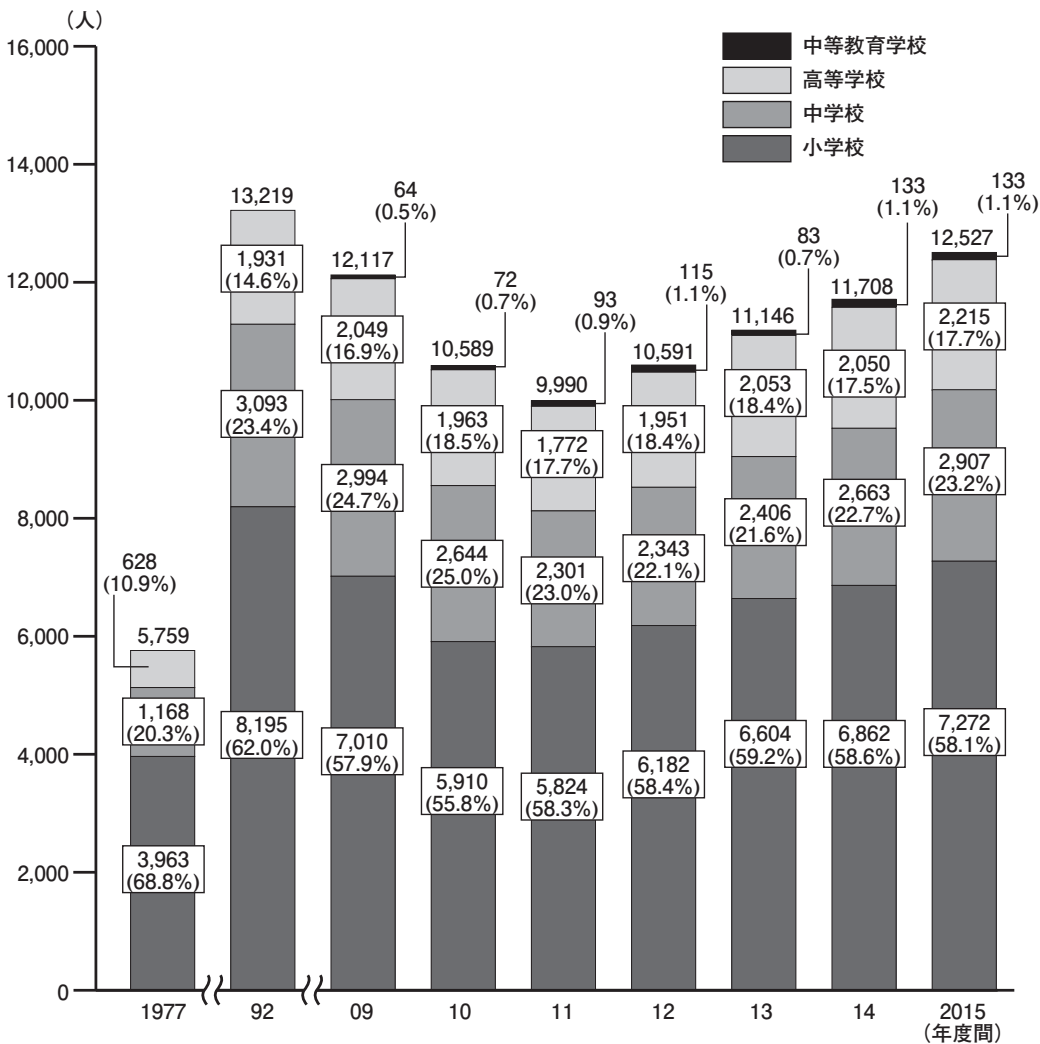
# 帰国児童生徒数、四年連続で増加。一万二千人を上回る

文部科学省がまとめた二〇一六年度の「学校基本調査」によると、引き続き一年を超える期間海外に在留し、二〇一五年度（二〇一五年四月一日から二〇一六年三月三十一日まで）の間に帰国して、二〇一六年五月一日の時点で国内の小学校・中学校・高等学校・中等教育学校に在籍する児童生徒の数は、前年度に比べて八一九人多い一万二五二七人（七・〇％増）となった（表1）。

帰国児童生徒数は一九七七年の調査開始以来、九二年（一万三二一九人）までほぼ右肩上がりが増え、それ以降は一人を上回る水準で推移してきた。二〇一一年、二十七年ぶりに一人を下回ったが、翌年の調査では回復し、その後は順調に増え続けている。

なお、中等教育学校を除く学校種別に見る増加率は、小学校が六・〇％、中学校が九・二％、高等学校が八・〇％。帰国児童生徒が多い都道府県は、順に東京、神奈川県、愛知、千葉、埼玉、大阪、静岡となった（表2）。

表1：各年度間に帰国した児童生徒数の推移（「学校基本調査」より）



(注) 終戦前からの外地居住者の子女は除く。  
 (注) %は小数点第2位以下四捨五入。合計して100にならない場合がある。  
 (注) グラフデータのうち'77年は調査開始年、'92年はこれまでの最高数。

表2：2015年度都道府県別帰国児童生徒数（「学校基本調査」より）

順位		中等教育学校を含めない小中高の合計				小学校		中学校		高等学校	
		2015年度間 人数	構成比	(2014 年度間)	増減率	2015 年度間	(2014 年度間)	2015 年度間	(2014 年度間)	2015 年度間	(2014 年度間)
15	北海道	121	1.0%	119	1.7%	74	61	17	15	30	43
42	青森	16		25	-36.0%	8	12	6	11	2	2
22	岩手	16		12	33.3%	10	7	3	3	3	2
42	宮城	66		67	-1.5%	39	41	12	11	15	15
46	秋田	13		3	333.3%	9	3	3	0	1	0
36	山形	28		21	33.3%	21	18	4	2	3	1
22	福島	66		57	15.8%	44	43	15	9	7	5
	東北計	205	1.7%	185	10.8%	131	124	43	36	31	25
10	茨城	228		260	-12.3%	113	142	45	45	70	73
12	栃木	199		145	37.2%	128	77	46	43	25	25
20	群馬	81		81	0.0%	50	53	25	19	6	9
5	埼玉	621		527	17.8%	330	270	154	136	137	121
4	千葉	999		913	9.4%	576	526	243	229	180	158
1	東京	3,438		3,272	5.1%	1,814	1,814	798	699	826	759
2	神奈川	1,558		1,569	-0.7%	1,001	1,025	361	339	196	205
	関東計	7,124	57.5%	6,767	5.3%	4,012	3,907	1,672	1,510	1,440	1,350
32	新潟	37		40	-7.5%	26	28	7	9	4	3
25	富山	53		45	17.8%	43	33	9	9	1	3
30	石川	41		30	36.7%	26	20	10	7	5	3
31	福井	39		27	44.4%	26	17	12	9	1	1
	北陸計	170	1.4%	142	19.7%	121	98	38	34	11	10
29	山梨	42		48	-12.5%	24	30	9	6	9	12
17	長野	107		111	-3.6%	67	68	31	33	9	10
18	岐阜	99		80	23.8%	63	57	26	17	10	6
7	静岡	524		456	14.9%	277	272	165	126	82	58
3	愛知	1,375		1,173	17.2%	931	787	309	254	135	132
19	三重	98		107	-8.4%	60	71	18	17	20	19
	東海甲信計	2,245	18.1%	1,975	13.7%	1,422	1,285	558	453	265	237
14	滋賀	127		94	35.1%	88	58	29	27	10	9
9	京都	413		435	-5.1%	140	150	118	126	155	159
6	大阪	543		580	-6.4%	344	336	130	180	69	64
8	兵庫	429		380	12.9%	284	254	87	81	58	45
16	奈良	120		112	7.1%	63	58	24	27	33	27
38	和歌山	23		21	9.5%	20	18	3	3	0	0
	近畿計	1,655	13.4%	1,622	2.0%	939	874	391	444	325	304
47	鳥取	12		21	-42.9%	10	17	2	2	0	2
44	島根	14		9	55.6%	12	9	2	0	0	0
21	岡山	74		76	-2.6%	46	56	14	12	14	8
13	広島	140		121	15.7%	87	82	36	27	17	12
35	山口	29		22	31.8%	20	15	5	4	4	3
	中国計	269	2.2%	249	8.0%	175	179	59	45	35	25
40	徳島	22		31	-29.0%	16	24	4	5	2	2
37	香川	26		22	18.2%	19	20	6	2	1	0
26	愛媛	50		28	78.6%	33	20	10	5	7	3
38	高知	23		12	91.7%	6	4	6	3	11	5
	四国計	121	1.0%	93	30.1%	74	68	26	15	21	10
11	福岡	226		180	25.6%	148	113	60	45	18	22
44	佐賀	14		23	-39.1%	11	18	3	3	0	2
34	長崎	35		26	34.6%	27	19	7	6	1	1
24	熊本	56		56	0.0%	42	30	9	22	5	4
33	大分	36		25	44.0%	20	13	6	5	10	7
41	宮崎	19		9	111.1%	14	4	2	3	3	2
26	鹿児島	50		49	2.0%	34	32	10	13	6	4
28	沖縄	48		55	-12.7%	28	37	6	14	14	4
	九州沖縄計	484	3.9%	423	14.4%	324	266	103	111	57	46
	全国計	12,394	100.0%	11,575	7.1%	7,272	6,862	2,907	2,663	2,215	2,050

(注) 中等教育学校の都道府県別在籍人数は公開されていない。

(注) 都道府県の前の数字は、2015年度間の「中等教育学校を含めない小中高の人数」の多い順番。

(注) %は小数点第2位以下四捨五入。合計して100にならない場合がある。

ニュース

帰国子女教育を考える会、  
第七十四回例会開催

「帰国子女教育を考える会」は十一月二十六日、YMCA学院高等学校（大阪市天王寺区）で「日本人学校の原点と今」をテーマに研究例会を開催。教育関係者ら二十八人が参加した。

同会は、おもに関西圏で帰国生教育に携わる教育相談員や企業の人事担当者、帰国生受け入れ校の関係者や保護者に加え、海外・帰国子女教育を研究する大学関係者を中心に一九九〇年にネットワーク化された。現在では年三回のペースでテーマを決めて例会を開いている。今回は「海外・帰国子女教育の原点ともいえる日本人学校の過去・現在、そして未来を展望しよう」という企画のもと、同会前会長の小島勝氏と現会長の山下良一氏、若手研究者の芝野淳一氏の三人が発題者となった。

一例として台北日本人学校を紹介した。一般的に第二次世界大戦後の最初の日本人学校は一九五六年一月に設立されたバンコク日本人学校とされているが、じつはそれより先に台北で設立されていたのではないかと疑問を持ち、同校の歴史に触れることになったと説明。調査の結果、「創立・設立・発足」時期にはいくつかの見解があるものの、日本からの教員派遣を要請する時期がバンコクよりも遅れるなどしたために、日本政府の「台北日本人学校」の認知が遅れることになったのではないかと語った。その点から、当時の台北には教育に携われる日本人がいて、自分たちで学校をつくらうという気運があったことが予想されるとし、学校の礎を調べることで「特徴」を知ることができると述べた。

次に、山下良一現会長が「ニューデリー日本人小学校の誕生と今」と題し、自身の派遣経験（一九六五～六七）を踏まえ、ニューデリー日本人学校が一九六四年九月に開校した当時の事情等を報告した。さらに、約五十年が経過したいま、グローバル化社会における現下の日本人学校の在り方について国際学校化する案など具体的な提言を行ったほか、今後の日本の教育のあるべき姿に關しても触れた。

最後に、現地でのフィールドワークにも従事している研究者の芝野淳一氏（大阪成蹊大学教育学部）が、「グアム日本人学校における教育ニーズの多様化」と題した発表を行った。近年、国際結婚家庭等さまざまな社会・文化・経済的背景を持つ子どもが急増しているグアム日本人学校の状況を紹介し、多様化する様子を「親の教育戦略」「子どもの学び」「卒業後の進路」の三つの側面から検討した。さらに、このような状況の中での学校運営の難しさについて触れ、教職員との奮闘ぶりについても言及した。そしてこの事例は、これまでの海外・帰国子女教育が想定してきた「海外子女教育」「帰国子女教育」「在外教育施設」の役割について再考を迫るものであるとし、今後は多様に開かれた海外・帰国子女教育を構想・実現していく必要があるのではないかと提言した。

会場からは「日本人学校設立当初の目的である『帰国後の適応教育』も大切」との声が挙がり、活発に意見が交換された。日本人学校の存在は海外・帰国子女教育の原点であることが再認識され、今後も「日本人学校シリーズ」としてこのテーマに取り組んでいくことが確認された。

お知らせ

2017年度海外子女の教科書について

文部科学省は海外子女教育の推進をはかるため、外務省の協力を得て、海外在住の義務教育年齢の日本人子女が使用する教科書の無償給与を行っている。

2017年度に給与される教科書は次ページの一覧表のとおり。教科書は前期用、後期用の2回に分けて在外公館に送付され、対象者に給与される。今回発送される2017年度前期用の総計は60万8680冊に上る。

※なお、これから1年以上の在留予定で海外へ出国するお子さんは、出国前に海外子女教育振興財団をとおして教科書の無償給与を受けることとなります（永住予定者は除く）。必要書類等、詳しい受け取り方法は同財団のホームページをご参照ください。問い合わせ先

2017（平成29）年度 海外子女用教科書一覧

（小学部用）

科目	教科書名	発行者
国語 書写 社会 図	国語 書写 新編 新しい社会 楽しく学ぶ 小学生の地図帳 4・5・6年	光村図書出版株式会社 東京書籍株式会社 株式会社帝国書院
算理 生活 音 図画 家庭 保	新編 新しい算数 新版 たのしい理科 新編 新しい生活 小学生の音楽 図画工作 わたしたちの家庭科 新・みんなの保健	東京書籍株式会社 大日本図書株式会社 東京書籍株式会社 株式会社教育芸術社 日本文教出版株式会社 開隆堂出版株式会社 株式会社学研教育みらい

（中学部用）

科目	教科書名	発行者
国語 書写 社会 地 数 理 音楽 (一般) 美術 保健 技術 英	国語 中学書写 新編 新しい社会〔地理、歴史、 公民〕 中学校社会科地図 未来へひろがる数学 新編 新しい科学 中学生の音楽 中学生の器楽 美術 新・中学保健体育 技術・家庭〔技術分野、家庭分野〕 NEW HORIZON English Course	光村図書出版株式会社 教育出版株式会社 東京書籍株式会社 株式会社帝国書院 株式会社新興出版社啓林館 東京書籍株式会社 株式会社教育芸術社 日本文教出版株式会社 株式会社学研教育みらい 東京書籍株式会社 東京書籍株式会社

第64回小学校教育研究発表協議会  
を開催（愛知教育大学附属名古屋  
小学校）

開催日 5月30日  
会場 愛知教育大学附属名古屋

海外子女教育振興財団  
情報サービスチーム

TEL 03-4330-1349  
E-mail textbook@joes.or.jp  
URL <http://www.joes.or.jp/>  
kyokasho/

小学校（愛知県名古屋市）  
研究主題 「これからの社会を生  
き抜く子」の育成【第三次】  
―各教科の改善点を基にした指  
導方法の工夫―

- 内容
- 研究概要の説明
  - 公開授業（各教科、帰国児童  
教育、外国語活動、道徳、食  
育）
  - 研究発表協議会（各教科）
  - 授業研究会（外国語活動、道

徳、食育）

○帰国児童教育活動紹介

○学校保健活動紹介

発表者 愛知教育大学附属名古屋  
小学校教諭

\*詳細は4月下旬に同校のホーム  
ページにて案内される予定。

URL <http://www.np.aichi-edu.ac.jp>

外国語保持教室でエッセイコンテ  
スト2016を実施（海外子女教  
育振興財団）

外国語保持教室では毎年、全受  
講生を対象としたコンテストを開  
催している。

今年度は50-WORD NARRATIVE  
CONTEST。子どもたちが英語・  
フランス語でエッセイを書き、ウ  
ェブを含む全教室から合計937  
点の応募があった。

コンテストでは英語小学2年生  
部門、同小学3・4年生部門、同  
小学5・6年生部門、同中学・高  
校生部門、フランス語部門の5つ  
に分けて英語部門の第1位、2位、  
3位、フランス語部門の第1位、  
2位を選出。  
その中から英語部門の鈴木廉正  
さん（小4・船橋教室）の次の作  
品が「GRAND CHAMPION」に  
選ばれた。

I lived surrounded by animals  
in Australia.

**Kookaburras laughed loudly and woke me up every morning. At noon, I had to guard my lunch from hungry ibises trying to steal it. Every night noisy possums had an athletics carnival on my roof. So my life was alive with Australian animals.**

オンラインによる教育相談のサー  
ビス実施（海外子女教育振興財団）

海外子女教育振興財団では、面  
談・電話・Eメール等のほか、オ  
ンラインによる教育相談も行って  
います。  
申し込み方法等の詳細につきま  
しては、ホームページをご覧だ  
さい。

URL <http://www.joes.or.jp/sodan/>

# 「歴史に学び、未来を読もう！」

—— 加来耕三さん、日本人学校に歴史マンガを寄贈

寄贈本のなかでも、いま特にオススメの一冊「明治維新」を手にする加来耕三さん。「来年は明治維新一五〇周年です！」



## 〈加来 耕三さん プロフィール〉

1958年大阪市生まれ。奈良大学文学部史学科を卒業。学生生活を経て、84年に奈良大学文学部研究員。現在は大学・企業の講師を務めながら、歴史家・作家として著作活動を行っている。テレビ・ラジオ等の番組監修、出演も多い。

(オフィシャルサイト  
<http://www.kaku-kouzo.com>)

昨年7月、歴史がテーマのテレビ番組の時代考証や監修、またコメンテーターとしても活躍する歴史家の加来耕三さんから、ご自身が監修する『コミック版 日本の歴史 前半50巻』を日本人学校等に寄贈したいとのご提案がありました。

現在、海外子女教育振興財団では、在外教育施設支援の一環として、希望のあった日本人学校に送料を負担してお送りしています。本誌が刊行されるころには到着し、歴史マンガを楽しむ子どもたちの姿が見られているかもしれません。

「次世代のために貢献したい」と語る加来さんに、歴史マンガ寄贈に込めた思いなどを聞いてみました。

—— どのような気持ちで歴史マンガを寄贈されたのでしょうか。

海外では、日本を思つて寂しくなることもあるでしょう。そんなとき、手に取りやすいマンガで、日本の歴史に触れてもらえたらと思います。登場人物の生き方からきつと勇気をもらつて元気になれるはずですよ。

私は日本人が持っている最大の魅力は「志の高さ」と「優しさ」だと思います。海外で暮らす皆さんはどう思われているのでしょうか。そんなことも含めて、読後はぜひ

友達や家族と、話し合つてみてください。

さい。歴史を題材にコミュニケーションの輪が広がればうれしいですね。

そして、「なぜ、ここでこんな戦<sup>いくさ</sup>が起きたのだろう」「この時代の前後は、どんなことがあったのかな」などと好奇心が芽生えて、調べたくなつてくれたら、監修者冥利に尽きます。

五十巻読むのに順番やルールはありません。「この名前、聞いたことある」「この戦いは大きそう」などと、頭にピンときたものから、どんどん読んでみてください。

—— 歴史を知ることの意味とは？

人生は一度きりです。でも、歴史を知れば、たくさん的人物や場面に出会えます。その出会いを自分の糧<sup>かじ</sup>にしていくことができるのです。

そして、昔を知ることによって読めます。結果の出ている過去で、将来を予想するのです。

歴史は暗記するものではありません。「考える力」を育んで、よりよい世界をつくる原動力になり得るものだと思います。

—— 『コミック版 日本の歴史』で、こだわったところを教えてください。

老若男女、歴史の得手不得手に関係なく、読みたくなるように心がけました。

マンガでは性格や生き方が感じ取れるような人物像を描くことこだわっています。コマの連続性を大切に「絵」で伝わるように、映画を見るように楽しめると思っています。また、背景を知り理解を深められるように、用語の注釈や年表のほか、豆知識や解説を入れていきます。

—— 海外に住んでいる日本人の子どもたちに、メッセージを。

日本人としての誇りを持って、異文化を体験してきてほしいですね。海外に住む経験は、みんなができることではありません。つらいときもあると思いますが、「考えて」視野の広い人になってほしいと願っています。

そして、いつか『日本の歴史』に登場する人物になってください。私は一〇〇冊までは出版し続けま